

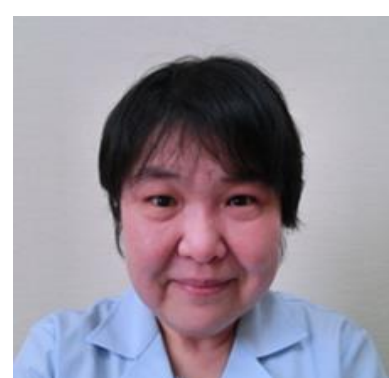
# ニューフェイス

みつい ゆき  
社会福祉士 三井 由起



今年の1月より、医療ソーシャルワーカーとして働く事になりました、三井と言います。通院、入院生活にて何かお困りのことや福祉制度のこと、「誰に相談していいかわからない」などございましたら、いつでもお声かけください。

こぼり あきこ  
管理栄養士 小堀 明子



子供の頃から入院5回、手術を3回と経験した事で、少なからず、患者さんの痛みや苦しみに寄り添う事が出来ると思います。また、毎日の食事が現在の体を作り、病気の快復と予防に直結している事を自覚して頂き、患者さん自身が医療チームの一員として、今後より健康な生活を送って行く為の提案ができれば幸いに思います。

## 診察のご案内

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00	一診 伊藤 順	一診 伊藤 順	一診 伊藤 順	一診 伊藤 順	一診 伊藤 博	一診
	二診 表 和彦	二診 表 和彦	二診 表 和彦	二診 小林 博人	二診 伊藤 順	二診 伊藤 順
	三診	三診	三診	三診	三診	三診 表 和彦(第2休)
13:00	内視鏡 表 和彦	内視鏡 表 和彦	内視鏡 表 和彦	内視鏡 表 和彦	内視鏡 表 和彦	内視鏡 伊藤理(第2, 4出)
午後 14:00	一診 伊藤 順	一診 伊藤 順	一診 表 和彦	一診 伊藤 順	一診 伊藤 順	休診
	二診 表 和彦	二診 (表 和彦)	二診	二診	二診 (表 和彦)	
	三診	三診	三診	三診	三診	
18:00	内視鏡 表 和彦	内視鏡	内視鏡	内視鏡 表 和彦	内視鏡	

\*胃カメラ・大腸カメラとも、月曜～土曜まで毎日検査が可能です。電話等によりお気軽にお問い合わせ下さい。

## 交通のご案内



- 北鉄バス
  - 片町(金劇パシオン前)下車 徒歩5分
  - 片町(片町きらら前)下車 徒歩10分
  - 野町・広小路下車 徒歩7分
- タクシー
  - JR金沢駅より10分

伊藤病院 日本医療機能評価機構認定病院  
 〒920-0976 金沢市十三間町98  
 Tel(076)263-6351 Fax(076)263-2526  
 URL: http://www.ito-hp.jp Email: info@ito-hp.jp



編集 伊藤病院 広報委員会

## 清流

広報誌タイトルは伊藤博名誉院長みずからのネーミングによるもので、患者さま一人ひとりに対して職員全員が犀川の清き流れの如く澄んだ気持ちでおだやかに思いやりを持ちながら対応させて頂ければと考えております。



# 清流

伊藤病院だより

## 『日本医師会 赤ひげ大賞』受賞



令和3年3月



この度、伊藤博 名誉院長が『第9回日本医師会赤ひげ大賞』を受賞しました。赤ひげ大賞とは日本医師会と産経新聞社などが共催し、全国の都道府県医師会が推薦された候補者から毎年1回、5名が選ばれるものです。「地域住民の健康を支えている医師」「医療を通じてまちづくりの一翼を担っている医師」「医療資源の乏しい離島や過疎地域での医療活動」など現場医療に貢献した医師」などを顕彰するものです。



日本医療機能評価機構認定

第20巻2号

令和3年4月19日 発刊

発行所

伊藤病院

〒920-0976

石川県金沢市十三間町98

Tel(076)263-6351

Fax(076)263-2526

http://www.ito-hp.jp

- 放射線科
- リハビリテーション科
- 内視鏡内科
- 循環器内科
- 消化器内科
- 皮膚科
- 泌尿器科
- 外科
- 内科

次いで、昭和20年代半ば頃、胃がんの早期診断が容易に出来なかった時期のことですが、X線所見と手術所見との不一致が少なくなく、このような状況では自分自身を医師と云えるのかと真剣に悩んだことがありました。そこで、胃カメラに期待をかけ、昭和28年8月東京大学田坂内科8研に赴き、始められたばかりの胃カメラ検査を見学し、昭和29年2月から国立金沢病院にて北陸地方で初めて日常診療にカメラ検査を導入しました。その後、普及に努め、昭和35年9月には全国に先がけて胃カメラ学会北陸地方会を設立できたのも貴重な思い出となっています。後年、胃カメラの普及に貢献したことで平成19年(2007年)5月日本消化器内視鏡学会50周年記念の総会で、第1回崎田賞を受賞することができました。

次に、金沢市医師会での担当業務の中で、昭和55年(1980年)6月、それまで過去数年間設置が検討されていた休日夜間急病センターを中核とした金沢総合健康センターが地域医療・学校保健推進を含めた事業として設立されることとなり、担当理事としてこの施設の開設と運用に深く関与することになったこともまた貴重な思い出であります。

また、平成28年(2016年)4月には日本臨床内科学会から地域医療功労賞を戴いたのも大切な記念となっています。



今回は、思いもよらない赤ひげ大賞を戴くことになりました。医療に従事する中で特にこの大賞に値するほどの業績を残した自覚もなく、医師として78年の歳月についても、ただ医師として当然の仕事の続けながら自然に経過したに過ぎません。このたびの赤ひげ大賞受賞に大変驚きながら心から感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。皆様方に心から厚くお礼申し上げます。



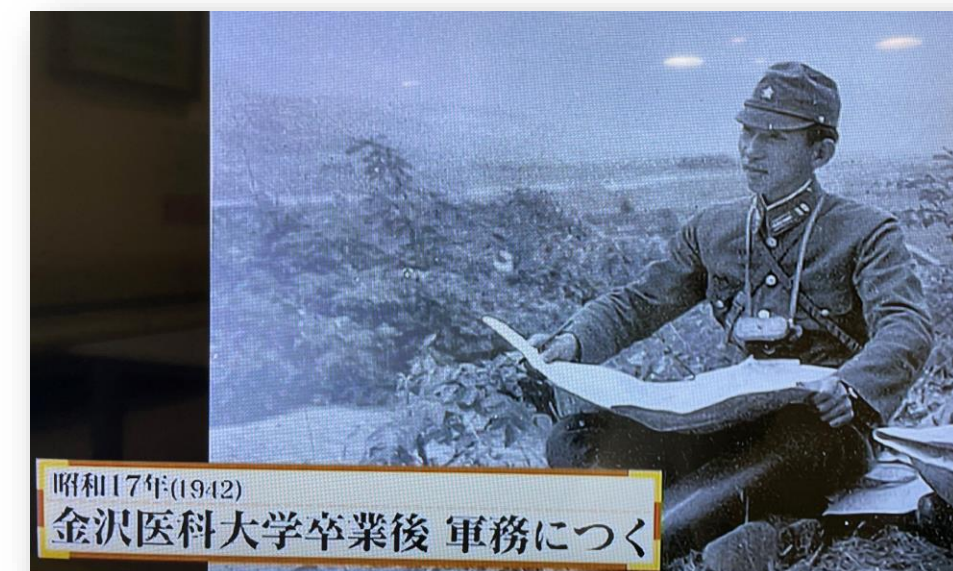
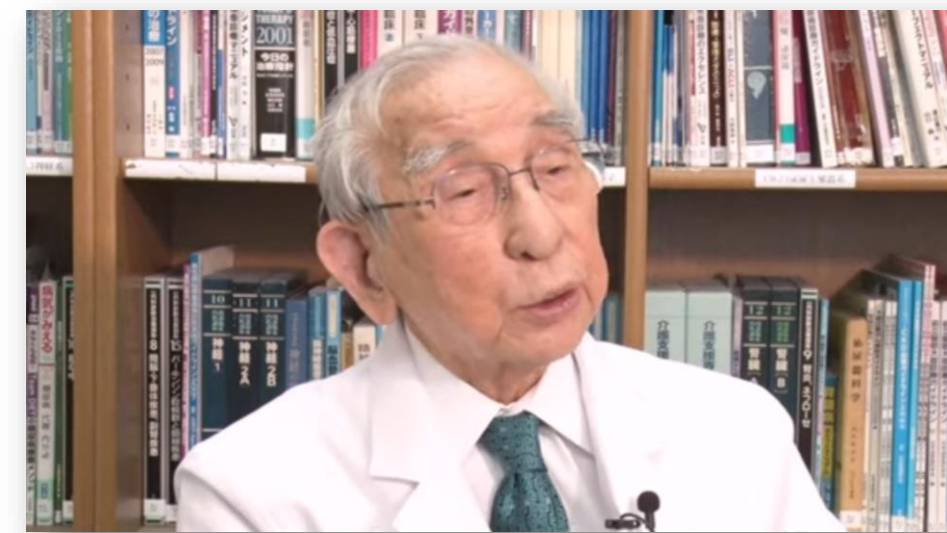
ひ孫 るいくん

## 赤ひげ大賞を戴くにあたり



私は病院スタッフや患者さんからは親しみを込めて大先生(おおせんせい)と呼んでもらっています。今でも週1回の外来診療と週2回の入院患者さんの回診はかかしません。病院の管理や設備、機器の整備等にもたえず細かく眼をくぼっているという姿勢は今までと変わりません。日常診療についても地域の方々にいつも寄り添い頼りにされるよう、丁寧に適切な配慮を心掛けています。

医師としてかなり長い年月勤める中で印象に残る思い出をいくつか述べさせて戴きます。



まず昭和17年10月戦時の繰りあげ卒業後、すぐ軍医となり、陸軍軍医学校を経て金沢陸軍病院に赴任し、終戦まで診療と教育を担当しました。戦後は国立金沢病院(現金沢医療センター)に勤務、この時期に大きな経験をしたのが、東日本大震災、阪神大震災に次ぐ戦後3番目の大きな被害となった福井地震(昭和23年6月28日、死者約3800人)の際の防疫活動であります。発生直後、同僚らと救護隊を結成し、翌日に福井県丸岡町(現坂井市)に入り、現地で唯一軒倒壊を免れた幼稚園を拠点として活動を開始しました。それまでの戦中戦後の伝染病予防対策の知識や経験を生かし、各避難所に何回も出向いて、腸チフス等のワクチン接種や指定した井戸の消毒をひたすら行いました。それらの結果、現地での腸管系細菌感染症の発生・蔓延をほぼ完全に抑え込むことに成功、衛生状態が良くなる保菌者も多かった当時としては画期的な成果でした。